安全上のご注意

必ずお守り下さい

本製品を安全にお使い頂くために、本製品をお使いになる前に必ず本紙をお読みいただき、内容をよくご理解のうえ、お読みになった後は大切に保管して下さい。本紙ではお客様や他の人々への危険、財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした際に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷等を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性・又は物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

ベルボン製品を正しく安全にお使いいただくために

⚠警告

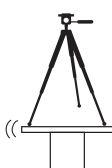
可変石突等のスパイクを備えた三脚や一脚を持ち運びする際は、安全のため必ずゴム石突に変換するか、ケースやレグポシェット等を使いスパイクがむき出しにならないよう気をつけて下さい。死亡や大ケガの原因となります。電車内等で周囲に人が多い場合は、いっそうの注意が必要です。

三脚には推奨積載質量が設定されています。必ずその範囲内のカメラを使用して下さい。特に、雲台がセットされた三脚自重の２倍を超えるカメラを使用すると、安定性が極端に悪くなりますのでご注意下さい。三脚が転倒し死亡や大ケガにつながる恐れがあります。またカメラブレの原因にもなります。

カメラを装着したまま脚の伸縮調整や雲台の操作をする際は、必ずカメラを手で支えながらおこなって下さい。三脚やカメラが不意に動きカメラを破損したり、指や手を三脚にはさみケガをする恐れがあります。カメラ形状によってはバランスが取りにくい事もありますので、十分気をつけて下さい。

三脚を設置する際は、十分に注意しておこなって下さい。あやまって指や手をはさむとケガにつながります。また各ロック箇所やストッパーが緩んでいないか、再度確認して下さい。不意に三脚が縮んで転倒し、カメラが破損する恐れがあります。取扱説明書をよく読み、確かめながら操作して下さい。

三脚は撮影用の機材です。絶対に、三脚の上に腰掛けたり乗ったりしないで下さい。転倒し、死亡や大ケガにつながります。また一脚を杖がわりにして歩行補助の器具にするような行為は、不意に脚が縮み転倒するなどして大変危険です。思わぬ事故につながりますので、絶対におやめ下さい。
※強度的にも大変危険です。

ぐらついた台の上や、不整地・傾斜面等の不安定な場所で三脚を使用する場合は、十分に注意して下さい。特に、高位置での使用の場合、頭や足の上等に落下すると、死亡や大ケガにつながる恐れがあります。必ず三脚を設置する前に、設置場所や周囲の状況をよく確認して下さい。近くを人が行き来するような場所での使用も注意が必要です。

三脚や一脚は金属部品やカーボン繊維で構成されておりますので、通電します。高圧線等、電気が通っている物の近くでは使用を避けて下さい。また落雷の恐れがある場合は絶対に使用しないで下さい。そのような場所では撮影をやめ、すみやかに避難して下さい。

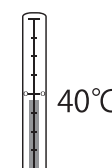
三脚や一脚を、小さなお子様の手の届く場所に設置・保管しないで下さい。あやまって指や手をはさんだり、三脚が倒れて死亡や大ケガにつながる恐れがあります。またベルトやストラップのある製品については、お子様の首に巻きついたりしないよう、しっかり確実に管理して下さい。

三脚にカメラを取り付けたまま放置してその場を離れることや、三脚を場所取りのために利用することはお避け下さい。他の人や車の通行の妨げになったり、ぶつかってケガをさせてしまったり、倒れてカメラが破損する恐れがあります。

三脚の使用時は、３本の脚を十分に開いて下さい。脚の開きが不十分だと、不意に三脚が倒れケガや破損の原因となります。また不安定な状態での使用は、カメラブレの原因にもなります。

⚠注意

三脚や一脚にカメラを装着したままでの移動はお避け下さい。予想以上の力が加わった場合、カメラが落下する恐れがあります。特に、カメラを装着したまま三脚や一脚を肩に担いで移動すると、カメラが視界に入らないので大変危険です。移動時は必ずカメラを外して下さい。

製品の使用温度範囲は、0℃〜40℃となっています。この範囲を超えると高温下ではオイル漏れをおこしたり、低温下ではパン・ティルト動作が重くなったりして、十分な性能が発揮されない場合があります。高温多湿な場所や直射日光があたる場所、自動車内等には決して製品を放置しないで下さい。

各部ストッパーネジやハンドル棒・固定レバー等は、必要なとき以外は確実に締めてご使用下さい。ネジやレバーが緩んでいると、三脚の転倒やカメラ破損の原因となります。また、緩んだ状態で移動すると、ネジ等を落として紛失する可能性があります。

冬場の撮影や寒冷地でのご使用においては、金属部分が凍結する恐れがありますので、素手では操作しないで下さい。「カメラマングローブ」等の撮影用手袋を用いることをお勧めします。

三脚や雲台各部へのオイル・グリス等の補給はしないで下さい。十分な性能が発揮されなくなる場合があります。可動部の動きが悪くなってきた場合は、お客様ご相談センターまでご連絡下さい。

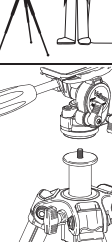
製品に水や砂が付いたまま使用を続けると、可動部から中に入り故障の原因となります。汚れてしまった場合は、きれいな布でよく拭き取って使用して下さい。脚パイプが濡れてしまった場合には、必ず拭いた後によく乾かして下さい。

三脚や一脚を壁に立て掛けたり、脚を閉じた細身な状態で立てておくと、不意に倒れる恐れがあり危険です。できるだけ横にして（寝かせて）置いて下さい。

長期間使用しなかった場合や大切な撮影の前には、必ず事前に各部を点検してから使用して下さい。また高性能を保つため、１〜２年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。その際はお客様ご相談センターまでご連絡下さい。

製品の水準器は、あくまで撮影の目安として装備されているものです。計測用途や業務用途での精密使用には適していませんので、ご注意下さい。

雲台の取り外しが可能な製品の場合雲台を交換することができます。雲台（三脚）の全てのストッパーやハンドル棒をしっかりと締め、雲台全体を反時計回りに回すと外れます。この時、雲台に顔を近づけているとハンドル棒などにぶつかり大変危険です。十分に注意して作業して下さい。

製品の分解・改造等をしないで下さい。異常動作により、ケガや破損の原因となります。また分解・改造をした製品については、たとえご購入直後でも正規保証を受けられなくなりますので、その点もご注意下さい。

お手入れ・アフターサービス

- ご使用後は湿った布で汚れを拭き取った後、乾いた布でよく拭いて保管して下さい。特に、海岸や温泉地域でのご使用後は、そのままの状態で放置すると錆や故障の原因となりますのでお気をつけ下さい。
- 雨などで三脚が濡れてしまった場合は、乾いたきれいな布で水分をよく拭き取り、脚部は全段を伸ばしてよく乾かして下さい。脚パイプの奥まで濡れてしまった場合は、一度点検に出すことをお勧めします。お客様ご相談センターまでご連絡下さい。
- 清掃の際は、シンナー等の薬品は使わないで下さい。
- 修理または部品を紛失した場合は、販売店か、下記のお客様ご相談センターへ直接お問い合わせ下さい。本製品の性能部品は製造終了後５年を目安に保有しております。（この期間後であっても修理可能な場合もございます）
- 製品や保証について等、疑問に思うことがあれば下記のお客様ご相談センターまでお問い合わせ下さい。

（修理受付）
お客様ご相談センター

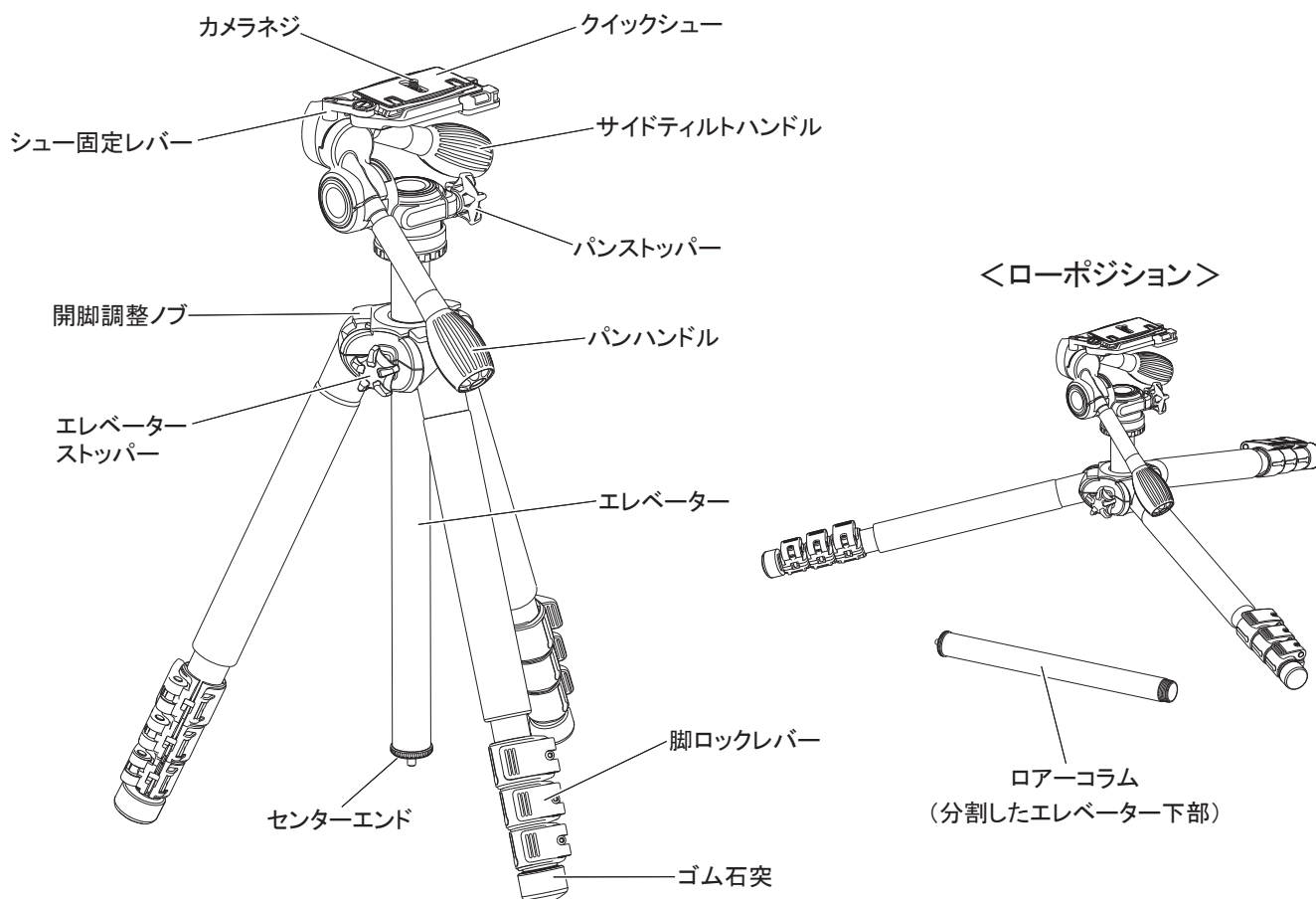
〒408-0205
山梨県北杜市明野町浅尾新田12
電話：0551-25-6155
E-Mail: jpsupport@velbon.com

各部の名称

このたびは、ベルボン製品をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

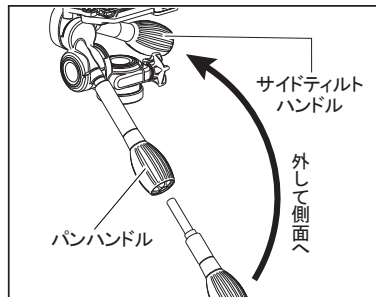
カメラネジ
クイックシュー
シュー固定レバー
サイドティルトハンドル
パンストッパー
開脚調整ノブ
パンハンドル
エレベーターストッパー
エレベーター
脚ロックレバー
センターエンド
ゴム石突

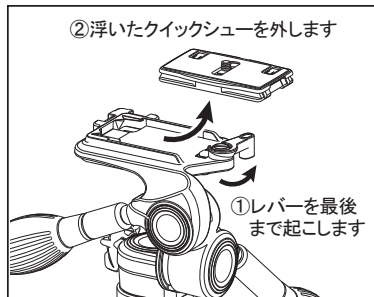
＜ローポジション＞

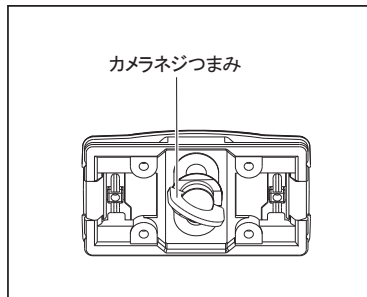
ロアーコラム
（分割したエレベーター下部）

※ローポジションはどの機種でも可能です。

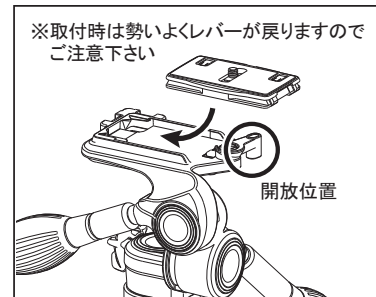
製品仕様	Geo Carmagne E635M Ⅱ	Geo Carmagne E645M Ⅱ	Geo Carmagne E535M Ⅱ	Geo Carmagne E545M Ⅱ
雲　台	PHD-65Q	PHD-65Q	PHD-55Q	PHD-55Q
全　高	1800mm	1640mm	1800mm	1650mm
ｴﾚﾍﾞｰﾀｰｽﾗｲﾄﾞ	404mm	304mm	411mm	311mm
最低高	247mm	232mm	275mm	250mm
縮　長	666mm	556mm	656mm	544mm
脚　径	28/25/22mm	28/25/22/19mm	25/22/19mm	25/22/19/16mm
段　数	3段	4段	3段	4段
質　量	2170g	2080g	1820g	1770g
推奨積載質量	4000g	4000g	3000g	3000g
クイックシュー	QRA-35Lシューブラック	QRA-35Lシューブラック	QRA-35Lシューブラック	QRA-35Lシューブラック

※記載の数値は平均的な値です。三脚は組み合わせ部品で構成されておりますので、記載数値と若干異なる場合があります。

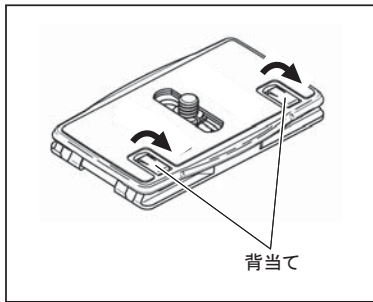
1.雲台の準備

ご購入時はパンハンドルのグリップにサイドティルトハンドルがねじ込まれています。サイドティルトハンドルを回して外し、側面に取り付けてご使用下さい。三脚ケースに収納する際は、元のようにハンドルを結合して下さい。

2-1.カメラの取り付け方

シュー固定レバーを最後まで起こすと、クイックシューが浮き上がりますので、上図の矢印方向へスライドさせながら、本体から外します。

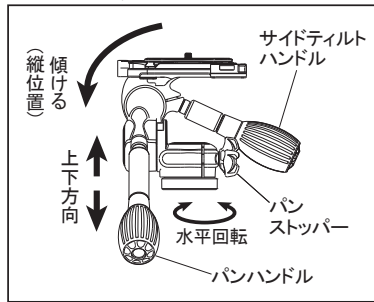
2-2.カメラの取り付け方

カメラ底面のネジ穴と、クイックシューのカメラネジを確実に合わせ、クイックシュー裏面のカメラネジつまみを起こして回し、しっかりと確実に取り付けて下さい。

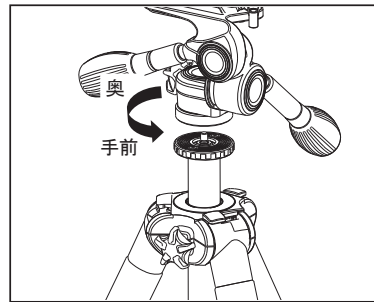
2-3.カメラの取り付け方

シュー固定レバーを開放位置にした状態でクイックシューをレバー側から斜めに滑らせるように取り付け、下に押し付けるとレバーが戻り半自動固定されます。後は手動でレバーを確実に押し込んで下さい。

⚠ カメラを取り付ける際は、必ずカメラをしっかりと保持しながら慎重におこなって下さい。
クイックシューが装着部からはみ出したりせず、動かずに確実に固定されている事を確認して下さい。

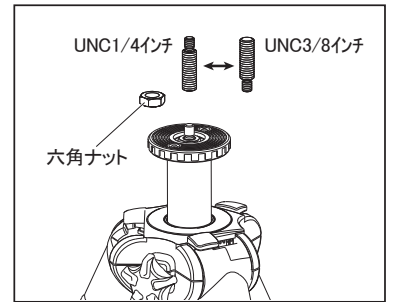
3.背当てについて

背当てをおこすと、縦位置撮影時のレンズ重さによる「前倒れ」を防ぐことができます。カメラネジの位置を調整してカメラの背面にうまく合わせて下さい。

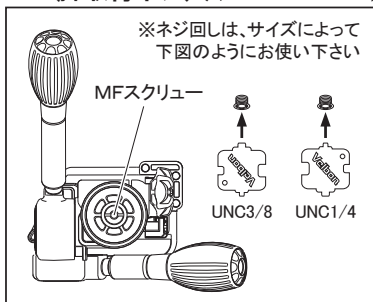
※カメラの形状によっては位置が合わず、機能しない場合があります。

4.雲台の使い方

パンハンドルを反時計方向に回し緩めると、カメラの上下方向が変えられます。サイドティルトハンドルを回し緩めると、カメラを縦位置にすることができます。パンストッパーを回し緩めると、カメラを水平回転することができます。構図が決まった位置で各々ストッパーを締め、シャッターをきります。

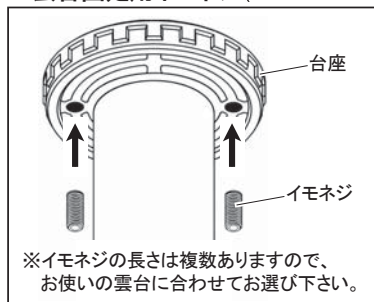
5.雲台を交換するには

雲台を交換する場合は、各ハンドル棒とストッパー類及び三脚のエレベーターストッパーをしっかりと締め、雲台全体を反時計方向に回して外して下さい。自由雲台など他の別売雲台に交換可能です。

※雲台取付ネジ＝UNC1/4（細ネジ）

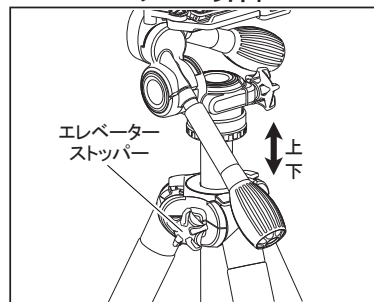
6.雲台取付ネジ（E600シリーズのみ）

E600シリーズは雲台取付ネジのサイズを変換することができます。海外メーカー製の雲台を付ける場合は、UNC3/8（太ネジ）にサイズ変換して下さい。付属の工具で台座の六角ナットを外し、雲台取付ネジを逆さにしてねじ込みます。その後、六角ナットを元通りに締めこみます。

7.三脚取付ネジ穴（E600シリーズのみ）

雲台の三脚取付ネジ穴はご購入時はUNC1/4インチ（細ネジ）用となっています。UNC3/8インチ（太ネジ）の取付ネジを使う場合は、付属のネジ回しでMFスクリューを交換して下さい。

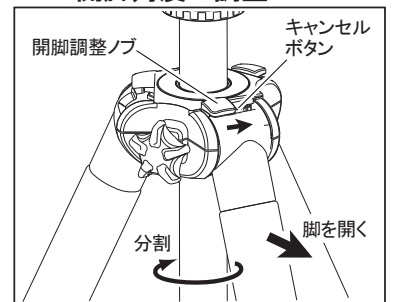
※MFスクリューは緩み止め処理がされていますので固めになっています。

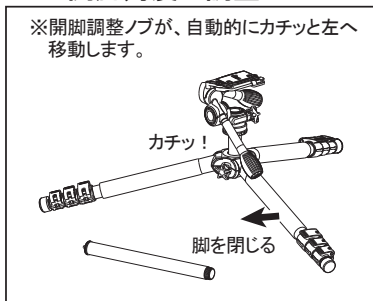
8.雲台固定用イモネジ（E600シリーズのみ）

操作時に雲台が緩まないようにするための「雲台固定用イモネジ」が付属しています。台座下から同梱の六角レンチでねじ込み、雲台底面に突き当てて下さい。

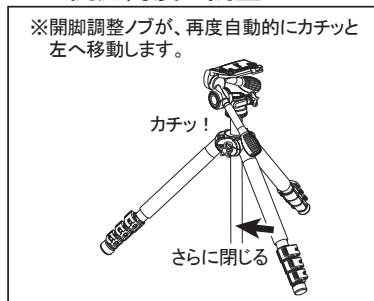
⚠イモネジの機能上、雲台底面に傷が付くことがあります。

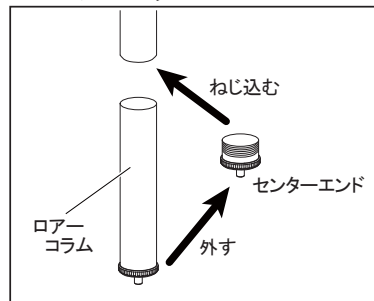
9.エレベーターの昇降

エレベーターストッパーを回して緩めると、エレベーターの昇降ができます。必要な位置でストッパーを締めて固定します。

⚠エレベーターの操作は、必ずカメラを手で支えながら、慎重におこなって下さい。

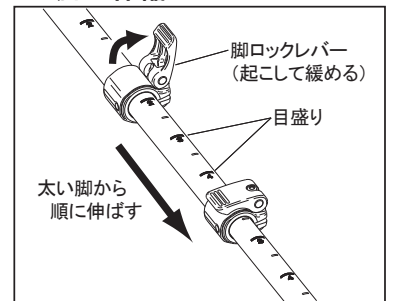
10-1.開脚角度の調整

脚を閉じた状態で、開脚調整ノブをカチッと止まる位置まで右にスライドさせ、脚をいっぱいに開くとローポジションとなります。エレベーターは固定した状態で下部を回すと、分割できます。 ※誤ってノブをスライドさせてしまった場合は、キャンセルボタンを押して元の位置に戻すことができます。

10-2.開脚角度の調整

ローポジション（上図イラスト）にした脚をゆっくり閉じていくと、開脚調整ノブが自動的にカチッと左方向へスライドします。この位置がセミローポジションとなります。

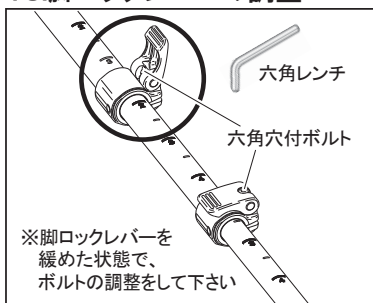
10-3.開脚角度の調整

さらに脚を閉じていくと、再び開脚調整ノブが自動的にカチッとスライドし、標準開脚に戻ります。

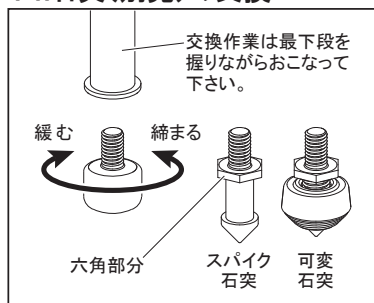
11.ロアーコラム

分割したエレベーター下部を、ロアーコラムと呼びます。先端に付いているセンターエンドを回して外し、分割部分にねじ込み「フタ」にすることができます。

⚠外したロアーコラムを無くさないよう、ご注意下さい。

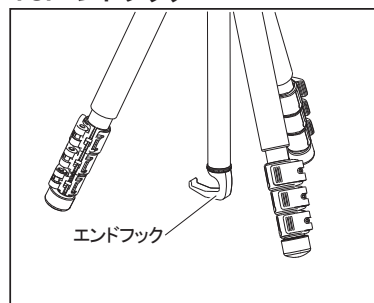
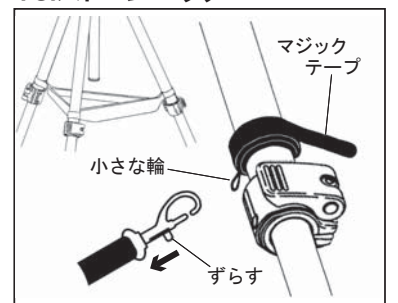
12.脚の伸縮

脚を伸ばす時は上の段から順に伸ばします。縮めるときは下の段から順にしまって下さい。なお、脚には目盛りがふられています。目線位置等の目安とすると便利です。

※目盛りはあくまで目安です。精密に測られているわけではありません。

13.脚ロックレバーの調整

長期間の使用等で、脚ロックが緩くなった場合には、上図の六角穴付ボルトを付属の六角レンチで締めて調整します。六角穴付ボルトを締めすぎると、レバーの開閉が固くなりますのでご注意下さい。

14.石突（別売）の交換

石突を交換するには、初期仕様のゴム石突を手で回して外し、別売石突付属の工具で六角部分を締まる方向に回して取り付けて下さい。

⚠脚パイプ内部の「空回り防止機構」が破損する恐れがありますので、極端に強く締め付けないようご注意下さい。また、必ず最下段を握って作業して下さい。

15.エンドフック

付属のエンドフックは、上図のようにセンターエンドに取り付けて使用します。カメラバッグ等を吊り下げ、安定性を確保します。吊り下げたバッグが風にあおられるとブレの原因になりますので、ベルトは出来るだけ短くして吊り下げて下さい。

16.ストーンバッグ

風の強い場所では、重し入れとしてストーンバッグをお使いください。バンドの小さな輪ができている方を内側にして、3本の脚それぞれにマジックテープできつく巻きつけます（上図）。その輪にストーンバッグのフックを引っかけて使用します。